

箕面市教育大綱

2025-2028

(箕面市教育振興基本計画)

令和7年(2025年)3月

箕面市

箕面市教育大綱について

「箕面市教育大綱」は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第一条の三に基づき策定しており、箕面市の教育に関する基本方向を定めています。計画期間は市長の任期に合わせ、令和7年度から令和10年度までの4年間としています。

また、大綱に加え、大綱の別紙として「箕面市教育大綱実行計画」を毎年度策定し、大綱で定めた基本方向の実現に向けた具体的な取組事項を定め、総合教育会議においてその進捗状況を確認します。

なお箕面市では、「箕面市教育大綱」「箕面市教育大綱実行計画」をもって、教育基本法第17条第2項の規定に基づく「箕面市教育振興基本計画」として位置づけています。

箕面を子育て・教育世界一のまちへ

箕面市はこれまで「子育て・教育日本一」をめざしてきましたが、私はもっと大きな夢を描いています。箕面市の可能性を考えると、日本一でなく、世界一のまちをめざせると信じています。そこで、「子育て・教育世界一」を新たな目標に掲げました。

「本当に世界一になれるのか」

そのようなお声もいただきました。

しかし、実は箕面市は「子育て・教育」において、すでに全国トップレベルになっています。

例えば、教育の面では、教職員の指導や保護者のサポート、そして子どもたちの頑張りが見事な結び、令和6年度の全国学力・学習状況調査で全国トップレベルの結果を出しました。さらに、文部科学省が中学校卒業時に英検3級相当以上の割合を6割以上に引き上げるとの目標に掲げる中、箕面市では約8割の中学3年生が英検3級相当以上の実力を持っています。これは全国平均を大きく上回る成果です。

子育ての面でも、所得制限のない高校卒業までの医療費助成や、身近な公園遊具の充実はもちろん、貧困の連鎖を断ち切るために「子ども成長見守りシステム」を構築し、保育所・幼稚園・小学校・中学校などの種別を問わず、教育委員会が一元的に困りごとを把握し、多くのご家庭を支援しています。

日本の教育水準は、国際学力調査「PISA」で世界トップレベルに位置しています。読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーのいずれもOECD平均を大きく上回っています。

しかし、「ICTを用いた探究型の教育の頻度」ではOECD平均を下回り、英語能力のベンチマークとなる「EF EPI 英語能力指数」も世界で最低レベルです。

こうした状況の中で、箕面市がICT教育や英語教育にもっと力を入れれば、世界一の教育のまちに近づけると信じています。そのために、最先端のICT活用、さらなる英語教育の充実、多文化共生の推進など、グローバル社会で活躍できる環境を整えていきます。

一方子育てについては、OECD平均で子ども・子育て支援に対する公的支出がGDP比2.34%であるのに対し、日本は1.79%と平均以下です。

そこで、箕面市では、世界レベルの公的支出を上回るように、子ども・子育て支援策に徹底的に投資していきます。具体的には、不妊症・不育症の治療費補助、見守りおむつ定期便、ぴよぴよサポート、習い事代助成、学校給食費の無償化などを実現していきます。

「子育て・教育世界一のまち 箕面」を実現するために、市や教育委員会はもちろん、学校・園所や地域も一体となり、社会全体で子どもたちを育てていく環境をつくっていきましょう。

本大綱をもとに、市民の皆さまとともに箕面の明日を切り拓く教育を推進してまいります。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和7年(2025年)3月31日

箕面市長 原田亮

箕面市教育大綱の基本方向

■学校教育

グローバル人材を育みます

■子育て施策

全ての子育て世帯にとって、子育てしやすいまちをめざします

■生涯学習・社会教育

文化・芸術・スポーツが身近に感じられるまちにします

学校教育 グローバル人材を育みます

グローバル化が進んだ現代においては、英語スキルの習得はもちろんのこと、自分と異なる文化を理解し受け入れる柔軟性や、自分自身の考えを伝えながらも外国の人とも協力・協働する力が、これまで以上に重要になってきています。

本市では、小・中学校における英語教育は、自らの文化を大切にしながらも異なる文化や価値観を理解し、グローバル視点を養っていくための重要な手段になると考えています。小・中学校における英語教育に特に力を入れることで、グローバル化した社会においても、大きく羽ばたくことのできる児童生徒の育成をめざします。

- ◇「小・中学校 9 年間の授業で英語が話せるまち箕面」を目標に、英語教育を進めます。
- ◇ICT や AI を使いこなす教育により、子ども達の情報リテラシーを高める学校をつくります。
- ◇小・中学校 9 年間の子どもたちの健康的な成長を支えるとともに、9 年間を見通した小中一貫教育のさらなる推進や本市独自の施策を通じて、教育のさらなる質の向上を図ります。

子育て施策 全ての子育て世帯にとって、子育てしやすいまちをめざします

「妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援」を行うことで、子育て中の全ての保護者にとっての子育てしやすいまちを実現します。

- ◇子育て世帯の困りごとを見逃さない、真に使い勝手の良い子育て支援施策を展開します。
- ◇市内保育施設の安定的な保育士配置への支援を強化し、「いつでも断られない保育体制」の構築や、必要なときにスムーズに利用できる一時保育・病児保育の提供体制の実現をめざします。
- ◇公民や施設種別等に関わらず、全ての人が安心して幼児教育・保育施設を利用できるよう、幼児教育・保育のさらなる質の向上に努めます。

生涯学習・社会教育 文化・芸術・スポーツが身近に感じられるまちにします

本市が持つリソースの活用に加えて、文化・芸術・スポーツなどに身近に触れられる環境をさらに整備していくことで、「文化・芸術・スポーツのまち箕面」のブランド化を進めます。

- ◇図書館や生涯学習センターを活用した情操教育の充実を図ります。
- ◇文化や芸術、スポーツなどに身近に触れられる機会をつくります。
- ◇地元スポーツチームとの連携を強め、運動への関心・意欲を高め、体力向上と健康寿命の延伸をめざします。

編集・発行 箕面市役所

令和7年3月

大阪府箕面市西小路四丁目6番1号

TEL 072-723-2121(代表)

FAX 072-724-6010

<http://www.city.minoh.lg.jp>

| |
|-------|
| 印刷物番号 |
|-------|

| |
|------|
| 6-19 |
|------|